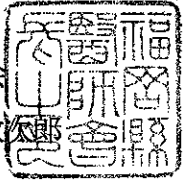


福岡医発第764号(地)

平成15年 7月11日

各医師会長 殿

福岡県医師会
会長 関原 敬太郎



平成15年度医師救急医療業務実地修練等に係る受講者の募集について

盛夏の候 貴職益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、救急医療対策の一環として例年実施されております標記の件につきまして、平成15年度も別添のとおり実施される旨、福岡県保健福祉部長より通知がありましたのでご参考までにお知らせいたします。

なお、募集につきましては、既に各関係医療機関へ通知されておりますことを申し添えます。

「公印省略」



15医指地第54号

平成15年7月7日

社団法人福岡県医師会長
社団法人福岡県病院協会
社団法人福岡県私設病院協会
福岡市救急病院協会

殿

福岡県保健福祉部長
(医療指導課地域医療係)

平成15年度医師救急医療業務実地修練等
に係る受講者の募集について

このことについては、救急医療対策の一環として例年実施されているところですが、平成15年度においても、別添のとおり実施されますので参考までにお知らせします。

なお、募集については、各関係医療機関に通知しておりますので申し添えます。

問合せ先：福岡県保健福祉部医療指導課
地域医療係（担当 松隈）

TEL 092-643-3274

別 紙

平成15年度

医師救急医療業務実地修練実施要領

厚生労働省医政局

医師救急医療業務実地修練実施要領

1 目的

本講習会は、救急医療を行っている医師を対象とし、日常の救急診療能力の向上を目指すものである。救急診療においては、種々の検査や処置をただ雑然と行うのではなく、救急疾患の病態を把握した合理的で無駄のない診療が重要である。このことから、本講習会では、単に個々の手技を習得するのではなく、これらをどのように組み合わせ最適な救急診療を行うかを下記研修目標に従って研修することにより、救急医療における専門的医師の確保に資することを目的とする。

(研修目標)

- (1) 救急患者の初期の診断・治療の理論と実際を習得する。
- (2) 救急処置を行った後の患者管理の実際を習得する。
- (3) 救命救急センター等への転送の適用と、転送に際して必要な準備と処置を習得する。

2 対象者

二次・三次救急医療施設等に勤務し、救急の第一線で活動している者（予定者を含む。）であって、施設長の推薦する者

3 受講者の推薦及び決定

受講者は、都道府県等が前項に定める対象者のうちから救急医療体制の確保上最も効果の期待できるものを選考し、別紙(1)による受講申込書を2部作成添付のうえ、厚生労働省医政局長に推薦するものとする。

厚生労働省医政局長は、都道府県等から推薦のあった者のうちから受講者を決定し、都道府県に通知するものとする。

4 修了証書

本講習会を受講し、修了した者には修了証書を授与する。

5 研修事業実施者

厚生労働省の委託により財団法人 日本救急医療財団が行うものとする。

6 研修場所及び受講定員

(1) 合同研修（東京）及び下記研修指定施設

ア	札幌医科大学附属病院	高度救命救急センター
イ	岩手医科大学附属病院	高度救命救急センター
ウ	防衛医科大学校附属病院	救命救急センター
エ	東京大学医学部附属病院	救急部集中治療部
オ	日本医科大学附属病院	高度救命救急センター
カ	帝京大学医学部附属病院	救命救急センター

キ	日本医科大学附属多摩永山病院	救命救急センター
ク	杏林大学医学部附属病院	高度救命救急センター
ケ	東邦大学医学部附属大森病院	救命救急センター
コ	聖マリアンナ医科大学病院	救命救急センター
サ	北里大学病院	救命救急センター
シ	大阪大学医学部附属病院	救命救急センター
ス	関西医科大学附属病院	高度救命救急センター
セ	川崎医科大学附属病院	高度救命救急センター
ソ	久留米大学医学部附属病院	高度救命救急センター
タ	済生会神奈川県病院	交通救急センター
チ	大阪府立病院	救命救急センター
ツ	大阪府立千里救命救急センター	救命救急センター
テ	兵庫県立西宮病院	救急医療センター
ト	沖縄県立中部病院	救命救急センター

(2) 受講定員 48名

7 研修実施期間

合同研修	自	平成15年10月	6日(月)
	至	平成15年10月	7日(火)
施設研修	自	平成15年10月	8日(水)
	至	平成15年10月	11日(土)

8 研修内容

別紙(2)の「研修内容」を標準とする。

9 受講経費

11,000円(受講者は、指定口座に振り込みとする。)

10 その他

旅費、滞在費及び宿泊費については、受講者側の負担とし、受講するために必要な筆記用具、白衣等は受講者が持参するものとする。

なお、宿泊施設については、受講者各自が確保することとする。

別紙(1)

医師救急医療業務実地修練受講申込書

(都道府県名)

ふりがな 受講者氏名		生 年 月 日		男女の別
		昭和 年 月 日(歳)	男・女	
受講者住所	〒 (Tel)			
所属施設	施設名		救急告示の有無	有・無
	所在地	〒 (Tel)		
	職 名			
卒業医科 大 学	学 校 名			
	卒業年月	昭和・平成 年 月 卒		
医師免許	免許番号	第 号		
	取得年月日	昭和・平成 年 月 日		
受講施設 の 希 望	第一希望			
	第二希望			
	第三希望			
診療科目及び主たる研究 (専門領域)				
救急医療の経験年数		年 か月		
所属施設の年間救急患者数		人		
所属施設の救急医療体制		救命救急センター・病院群輪番制病院・共同利用型病院・なし		
備 考 (研修を希望する理由及び意見)				

(注)1 受講施設については、必ず第三希望まで記入すること。

なお、特定の施設に多数の受講希望があった時などは、調整のため第二・第三希望を採用し決定するので、予め了知願いたい。

2 当該研修の受講を希望する理由及びその他受講に対する特記事項について備考欄に記入すること。

別紙（２）

研 修 内 容

1 合同研修

(1) 日 程

平成15年10月6日（月） ～ 平成15年10月7日（火）

(2) 内 容

ア オリエンテーション

イ 総合講義

「救急診療に必要な病態と治療の理解」

〔日本救急医学会 認定医制度の診療実績表を中心に行う。〕

2 施設研修

(1) 日 程

平成15年10月8日（水） ～ 平成15年10月11日（土）

(2) 内 容

ア 救急医療学に関する知識の習得と実習

（ア） 緊急レントゲンの読影（CTを含む。）

（イ） 緊急超音波検査

（ウ） 緊急心電図の読解

（エ） 緊急検査データの評価

（オ） 意識障害をはじめとする各種症状の鑑別

（カ） 緊急手術要否の判断（急性腹症、外傷等の手術適応）

（キ） 救急薬品の使用法

（ク） 救急患者の呼吸、循環、体液の管理

（ケ） 栄養管理とIVHの処方

（コ） 感染対策と抗生物質の選択

イ 緊急治療手技の習得

（ア） 基本的手技の習得

心肺脳蘇生法に必要な手技、創傷の処置、出血の止血法、レスピレータ使用法、スワングアンツカテーテル使用法、血液透析準備と透析の実際、穿刺法とドレナージの実際（心嚢、胸腔、腹腔、ダグラス窩）

（イ） 熱傷の管理

（ウ） 急性中毒の管理

（エ） 各種緊急手術の助手あるいは介助

ウ 症例検討：救急診療の実際とそのPitfall

エ 各救命救急センターで経験した症例を提示し、その問題点の検討を行う。

オ 各研修施設のシステム及び運営方法について

（各個人のバックグラウンドを背景にプログラムは個別に組む。）